

# 営農だより 第4号

目標

- ①食味値80点以上の確立
- ②「米ぬか」使用の土づくりによる食味向上、循環型農業の実践

## ～植え付け本数(3～4本)、 深さ(2cm)で田植えが出来ましたか～

ほ場によって植付本数を変えましたか？

**適正な莖数(穂数)を獲得することが食味向上のポイントです!!**

今年の4月は、日照時間は長いものの平均気温は平年より低く推移しました。これにより気温の日較差が大きく苗を焼いてしまったり、緑化期前に寒さにあたり草丈が伸び悩む農家が散見されました。5月から向こう1カ月は平年と同様に晴れの日が多く、気温が高い予報となっています。熱中症には十分に気をつけて水分補給等を行い安全作業を心掛けましょう。

苗が短い場合は植え傷みしないよう田植え機の速度を控えめにし、ゆっくり浅植え(2cm以上の深植えをしない)で葉が水没しない水管理をお願いします。

田植え後の水管理はこまめに行ってください。良食味米生産のポイントである太く、揃いの良い分けつを確保するため、水管理を徹底して下さい(可能な場合、5月中下旬より深水管理)。また藻類の発生は初期生育の阻害となるため、早めの防除を行ってください。

【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

項目 期間	平均気温(℃)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4月1～5日	10.8	9.0	1.8	29.5	25.9	113.9	40.5	45.7	88.6
6～10日	9.9	10.1	△0.2	51.9	26.6	195.1	0	44.6	—
11～15日	8.5	10.9	△2.4	27.0	25.8	104.7	65.5	44.2	148.2
4月前半 計	9.7	10.0	△0.3	108.4	78.3	138.4	106.0	134.5	78.8
16～20日	10.2	11.7	△1.5	16.3	25.1	64.9	185.0	42.2	438.4
21～25日	10.4	12.6	△2.2	35.0	26.5	132.1	1.0	37.1	2.7
26～30日	12.8	13.4	△0.6	41.9	27.8	150.7	0.5	33.7	1.5
4月後半 計	11.1	12.6	△0.1	93.2	79.4	117.4	186.5	113.0	165.0
4月 計	10.4	11.3	△0.9	201.6	157.7	127.8	292.5	247.5	118.2

注意

**補植苗は必ず撤去しましょう!!**

補植苗はいもち病の発生原因となります。補植後は速やかに撤去をお願い致します。

**【令和2年度 育苗巡回結果】～来年に向けた考察～**

今年の4月は遅霜予報が出るほど明け方に低温となるものの、昼間には気温が高く日照時間が長い天候でした。

1日の気温差が激しく葉先を焼いてしまったり、育苗器から出した後、緑化までの期間に低温にあたった苗は伸びが悪くなっています。特に4月8～15日の間に育苗器から出している苗は寒さにあたっている可能性があります。

遅霜予報が出ていても急激に気温が上がることもあるのでこまめに温度を確認し、できるだけ早い時間帯にハウスを開けましょう。

また緑化までに低温にあたると草丈の伸びが悪くなり、根張りも悪くなってしまいます。育苗器から出した後、緑化までの間に低温が予想される場合は保温に努めましょう。緑化期以降から涼しい管理にチェンジしていきましょう。

**【水管理】****太く揃いの良い分けつを確保するには、水管理が重要 !!****○田植え直後は深水にして苗を寒さや風害から守る**

稚苗の活着限界温度は12℃です。日中の入水は行わず、深水で苗を保温してあげましょう。

寒い日、夜間冷える日、寒風が吹く時にも深水にして水の保温力で苗を保護します。

丈が短い苗は水没しない程度で管理しましょう。

**○活着（田植え後5～7日）後、浅水管理で「分けつ」を促す。**

2～3cmの浅水管理（2～3cmの水深が最も水温・地温が上がる）により良質な分けつを促進しましょう。

**○夕方・夜に入水し、朝止めることで水温確保に努める。**

夜、用水の温度が水田の水の温度を上回ります。そのため夜間に水をいれ、朝の仕事前に水を止めることで温かい水を保つことができます。

日中のかけ流しは絶対に行わない！！

**○有害ガスの発生が多い場合は1～2日落水する。**

水田に足を踏み込んだとき気泡の発生が多い場合は、水の更新や落水するなどしてガス抜きをしましょう。田植え後およそ20日頃からガスの発生がみられます。

土壌への酸素供給や有害物質の除去を図り根を健全に保つためにも、水田へ入って土壌の様子を確認しながら必要に応じてガス抜きを行いましょう。

※除草剤散布後、7日間程度は落水をしないでください。

また、中後期除草剤を使用する場合はガス抜き後施用しましょう。

**【藻類の対策】****生育初期に藻類が発生すると、分けつの確保を妨げるため早期防除を心がけましょう !!**

対策～モグトン粒剤を散布。2～3kg/10a（エコ栽培米圃場は散布不可）

※モグトンは晴天の暑い日に撒くと効果的です。

発生が少ない圃場

～ペースト使用の田・サラブレッド KAI・シリウスエグザを使用した田

発生が多い圃場

～表層施肥、入水頻度の多い漏水田

## 【除草剤】

### 水管理と散布時期が重要 !!

○除草剤の処理層ができるには3日程度かかります。

除草剤散布後3日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水・かけ流しをしない。

○散布時期は、それぞれの除草剤の使用適期に使用する。

(遅すぎると除草剤の効かない雑草の葉齢となってしまう。)

○多年草雑草(クログワイ・オモダカ等)が多い圃場はレプラスを使用した体系処理をし、それでも雑草が残る場合は後期除草剤

(バサグラン等)を施用し、3年程度かけて徐々に少なくする。

それでも雑草が残ってしまったら・・・

- ヒエだけが残った場合 ⇒ クリンチャー1<sup>キ</sup>粒剤(ヒエ4～5葉期まで)
- ヒエと多種類の雑草が残った場合 ⇒ クリンチャーバスME液剤(ヒエ5葉期)
- 多年生雑草が多く残った場合 ⇒ バサグラン粒剤

※クリンチャーバスME液剤とバサグラン粒剤は落水状態で使用して下さい

## 《重要》『田植え時の葉齢』

稚苗：2.3葉 中苗：3.5葉 が移植時の基本的な葉齢となっています。

しかし今年は寒暖差の大きい気候だったため、徒長苗と丈の短い苗が両極端にみられました。けれどある程度なら心配することはありません。

徒長苗は根がしっかりと活着するよう田植え後に深水管理をし、丈が短い場合はゆっくり浅植えして葉が水に浸からないよう気をつけましょう。

**田植えをするときに、植える苗が何葉(何枚)になっているか数えてみましょう!!**

### 規制が厳しくなっています!!

- ① 農作業機を装着した状態で車両の幅が170cmを超える場合は大型特殊免許が必要となります。所有する機械の幅を測定しましょう!その他該当機種については再度ご確認ください。
- ② 普通免許のみで大型の農作業機を公道で運転すると、「無免許運転」扱いとなってしまいます。
- ③ 公道を走行する車両はナンバープレートを装着することが義務付けられています。  
これから規制が厳しくなることが予想されますので徹底しましょう!!

### ☆お願い☆ ～農作業者のマナー～

田んぼや畑で作業したあと、農耕車輛を圃場から持ち出す際に道路に土を落としたままになっているほ場が見受けられます。作業後は公道へ出る前に土を落としましょう。

又、道路に土を落とした場合は掃除しましょう。

## 春の農作業安全月間

全国で農作業による死亡事故が増えています!!

事故防止には、一人ひとりが高い安全意識を持って作業を行うことが重要です!!

農作業の管理・利用は、適切に行いましょう!!

◎高齢者による事故、機械操作に伴う事故が多くなっています!!

◎高齢者の方は、自らの心身機能の衰えを十分に意識して、農作業に取り組みましょう!!



## ◎田植後の水管理 ～太く揃いの良い分けつを確保しましょう!!

霜注意報が出たら田植直後は深水にして苗を寒さや風害から守る

稚苗の活着限界温度は12℃です。活着には気温より水温が大きく影響します。深水にして苗を保温し保護してあげましょう。

夕方・夜に入水し、朝止めることで水温確保に努める

夜、用水の温度が水田の水の温度を上回ります。そのため夜間に水を入れて、朝水を止めることで水温を保つことができます。日中のかけ流しは行わないようにしましょう。

活着後(田植後 5~7 日)、浅水管理で「分けつ」を促す

2~3 cmの浅水管理により良質な分けつを促進させましょう。しかし高温多照になると過剰分けつとなる恐れがあります。その場合は中干しを早める・深水管理を行うなどして分けつの過剰発生を抑えましょう。

昨年に引き続き葉齢を測定してみましよう!!

稲の年齢(葉齢)を知ることで、適切な管理ができる

葉齢を測定することで、生育ステージを把握することができます。およそ6~10日に1枚ずつ葉が展開されます。

☆葉齢のステージについては順次営農だよりにてお伝えしていきます。

☆測定苗 畦ぎわの1本苗を調べる方法で良い(簡便法:前半の葉齢は圃場内部とほぼ一致)

※葉にマジックで印(後半は数字)を記入する

※田植え後(稚苗)3.5葉期位になると1葉は枯れ、消失し始めるので必ず印を付けましょう

### 『イネミズゾウムシ・イネドロオウムシの防除』

～生育初期の被害は、イネの生育を遅らせる為、必ず防除する～

○毎年成虫被害のある圃場では、**フェルテラ箱粒剤**(残効が長い)を使用しましょう。(ほ場周辺)

**フェルテラ**を処理した苗は、他剤に比べてわずかな食害で害虫の摂食を速やかに停止させ、食害の増加を抑えます。(パダンSGを使用するほ場では施用できません)



イネミズゾウムシ成虫・被害

#### うまく効かせるコツ

移植3日前～前日に処理すると、薬剤が培土の上に落ちつきやすくなり、効果が安定します。

## ◎除草剤の上手な効かせ方 ～水管理と散布時期が重要!!

- ① 除草剤散布後3日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水・かけ流しをしない  
※除草剤の処理層を形成するには、3日程度かかります
- ② 散布後田面を露出させないように水管理をする。出来るだけ足跡で処理層を壊さない  
(水持ちの悪いほ場は追い水で水位を確保する)
- ③ 使用適期を見極める  
※ほ場の内側と外側では雑草の生育状況が異なる場合があります。ほ場内側の雑草の生育ステージを確認しましょう  
※代かき終了時点より雑草が生育を始めるので適期散布を注意  
(代かきは田植え直前が良い)

北駿地区ではゆっくり気温が上がる為、雑草もゆっくり顔を出します。体系防除をお勧めします。

	除草剤	
草の少ないほ場	(田植え直後～5日) <b>ショキニーフロアブル</b> 又は (田植え直後～5日) <b>マーシェット 1<sup>kg</sup>粒剤</b>	田植え後 20～25日 <b>ブイゴールSM1 キロ粒剤</b>
草の多いほ場	(田植え直後～5日) <b>ショキニーフロアブル</b> 又は (田植え直後～5日) <b>マーシェット 1<sup>kg</sup>粒剤</b>	田植え後 15～20日後 <b>サラブレット KAI1 キロ粒剤</b> 又は 田植え後 14～25日後 <b>レブラス 1 キロ粒剤</b>